

7/18
朝日

安保法案阻止 私の民主主義

アルバイト

(東京都 19)

き責務を負った立憲主義国家の一員として、この法案に反対し、この法案を止める。

声を上げるのは簡単だ。むしろ声を上げないことの方が私にとって難しい。なぜなら、私はこの国の自由と民主主義の当事者だからだ。戦争が起きてこの国が民主主義でなくなる、この国が自由を失ったとき、やはり私はその当事者だからだ。

何度でも言う。私は当事者の責任において、この法案を止める。それが私の民主主義だ。この投書を読んだあなたが、もしも声を上げてくれたならば、それは「私たち」の民主主義になる。

私は安全保障関連法案の成立を止めるため、国会前の抗議行動に参加する。デモにも行く。友達にも呼びかける。こうやって投書も書く。でも、みんなは全てやる。

「デモに行っても無駄」と多くの人には言うだろう。でも、私は法案成立を止められるからデモに行くのではない。止めなければならぬからデモに行く。無駄かどうかは結果論だ。

私は間もなく選挙権を手にする。この国の主権者の一人として、また「不断の努力」によって自由と権利を保持していく誇り高

学生デモ 特攻の無念重ね涙

無職

(東京都府 86)

の叫び。人間魚雷の「回天」特攻隊員となった予科練もいた。私もいずれ死ぬ覚悟だった。

安保法案が衆院を通過し、耐えられない思いでいる。だが、学生さんたちが反対のデモを始めたとき、特攻隊を自衛隊予科練(海軍飛行予科練習生)だった私は、うれしくて涙を流した。体の芯から燃える熱で、涙が湯になるようだった。オーイ、特攻で死んでいった先輩、同輩たち。「今こそ俺たちは生き返ったぞ」とむせび泣きしながら叫んだ。

天皇を神とする軍国で、貧しい思考力しかないままに、死ぬと命じられて爆弾もとも敵艦に突っ込んでいった特攻隊員たち。人生には心からの笑いがあり、友情と恋があふれ咲いていることすら知らず、五体爆裂し肉片となって恨み死にした。16歳、18歳、20歳……。

山口県・防府の通信学校で、特攻機が敵艦に突っ込んでいく時の「突入信号音」を傍受し何度も聞いた。先輩予科練の最後

若かった我々が、生まれ変わってデモ隊となって立ち並んでいるように感じた。学生さんたちに心から感謝する。今のあなたの方のようにこそ、我々は生きていたかったのだ。

7/18 朝日

戦争の不安考え 政治に参加

高校生

(岡山県 17)

政治にあまり詳しくありません。高校に入り、ある人から言われた「戦争は毎日の生活とは関係のない所から進んでいく」という言葉が気になり、友人のおばあちゃんに「今の政治って変なん？」と聞きました。おばあちゃんは第2次世界大戦について話し、負けているのに当時の新聞は勝つたように書いたから、みんな勘違いしたのだと言っていました。「いきなり戦争にはならないよ。だんだん段階を踏んで戦争になっていったんだよ」という言葉が特に印象に残りました。

そして少しずつ政治に興味を持つようになりました。今はどうでしょう。衆院で安保法案が可決されました。戦争への段階を踏んでいるように感じます。日本が他国に攻撃されたり反撃したりするかもしれないと怖くなります。相手を撃てば戦争になる、そう感じるのは私だけでしょか。困っている国や人を助けるのは良いと思います。でも、武器を使う以外の方法はないのでしょうか。18歳選挙権が成立し、私も来年から政治に参加できます。しっかり考えて投票しようと思います。日本の未来のために。

自公の政治いつか来た道か

無職

(兵庫県 73)

安全保障関連法案が衆院で可決された。55年前に時計を戻すと、金沢の大学に入学した1960(昭和35)年4月は60年安保闘争真っただ中だった。18歳とはいえ政治に関心の高かった私は、貴い犠牲を払って得た平和憲法が将来、安保条約によりなし崩しのゆがめられ、再び海外出兵の道に進むのでは、と深く危惧していた。先の大戦で父を失い、戦後、家族7人で辛酸をなめた。常に「なぜ先人たちは愚かな十五年戦争を止められなかったのか」という恨めしい思いが渦巻いていた。

「安保反対、岸を倒せ」のシユブレヒコールは金沢の街をおおった。私も連日行進の先頭に立った。東京では空前絶後のデモ機感がみなぎっていた。私は壬参加に一瞬のためらいはあったが、「どうか単なる大学生で終わらぬよう」と病床から手紙で励ます母に背中を押された。

時の総理は、戦後A級戦犯として投獄された岸信介氏。世論には耳をかさぬのに、「一声なき声」を聞いていると、うそぞいな。いつか来た道なのか。岸氏の孫、安倍晋三総理の前に、自民党内からは反対の声が聞こえず、「平和の党」を標榜する公明党は変質してしまつた。誠に未恐ろしい政治状況である。